



前月末の子どもの姿

低月齢児：表情が豊かになり「あーあー」など声をだし、手に玩具を持って遊ぶ。また、自分の足をしゃぶる。・寝返りが盛んになる。

高月齢児：様々な遊具に積極的に関わって遊ぶことを楽しむ・水に触れることを喜び、流れる様子を見つめる・擬音の言葉を喜び、まねして声を出すことを楽しむ。

新入園児：新しい環境に少しずつ慣れてくるが、疲れも見える。・保育者に甘えて泣くことがあるが、抱っこをしてもらうと安心する。

ねらい：夏の疲れを癒し、ゆったりと快適に過ごす。・運動機能を使って、探索活動を楽しむ。

安全・健康：一人一人の健康状態を把握し、個々に合わせた活動や休憩時間について配慮する。・沐浴やシャワーの際には、保育者も温度を体感し確認する。沐浴やシャワー後はタオルですばやく体や頭を拭き、体調管理に努める。

	内容	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助
養護	<ul style="list-style-type: none"> ○暑い日が続くので、水分補給をこまめにする ○信頼できる保育者との触れ合いの中で、依存的欲求を満たし、情緒を安定させる。 ●個々の状態に応じてシャワーをし、十分な休息を取ることで、夏の疲れを癒しながら生活する。 ●顔や手が汚れたときは拭いてもらい、衣服の着脱を行い、きれいになった心地よさを感じる。 ●安心できる環境の中で、自分の思いや感情、要求を態度で示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水分補給がいつでもできるよう、麦茶や白湯を用意する ○落ち着いた空間の中の睡眠スペースをつくっておき、眠たくなったがゆったりと休息が取れるようにする ●一人一人に適した方法で十分な休息が取れるよう、睡眠スペースをつくるなど環境を整える。 ●換気扇やエアコンなどで、適切な気温を保てるようにする。 ●体拭きタオルや着替えなどをかごに用意し、取り間違えないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○機嫌も良く、表情が豊かである。 ○泣いて体調が悪いことを表したり、保育者との触れ合いを求める。 ○抱っこをすると顔を保育者にくっつけ、安心する。 ●湯や水が体に触れることを嫌がり泣く。 ●暑さのため、食欲がない。 ●いつもより早めに眠る。 ●表情が豊かで、機嫌もよい。 ●汗を大量にかく。 ●着替えをすることを嫌がる。 ●手をたたき、笑顔になり喜びを表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの汗の量や体調について伝達し合い、水分補給をこまめに行い、脱水症状を防ぐ。また、室温を一定に保ち、一人ひとりの生活リズムを安定させることで、夏の疲れを癒し、快適に過ごせるようにする。 ○子どもたちに笑顔で関わることで、心身ともに満たされた気持ちで過ごせるようにする。 ●気温や健康状態を把握し、シャワーの実行を判断する。水温や出す量にも配慮し、安心して行えるようにする。 ●顔を拭かれることや着替えることを嫌がる時には、子どもの気持ちを代弁しながら手際よく済ませる。 ●思いを受け止められる心地よさを、感じられるようにする。
教育	<ul style="list-style-type: none"> ○寝返りをしたり、腹這いで遊んだり、手や足を動かして遊ぶ。 ○安心できる保育者と触れ合い遊びを楽しむ。 ○動く玩具や人を見ると、目で追ったり、じっと見たりする。 ●自分のできる移動能力を使って体を動かすことや探索活動を十分に楽しむ。 ●様々な物を自由に使って、感触遊びを楽しむ。 ●喃語を発し、応答してもらうことを喜ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ○ミルクを安定した環境で飲む。 ○●すりつぶした食べ物を喜んで食べたり、もぐもぐごっくんを楽しむ。 ●食事を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全な遊びスペースを確保する ○子どもたちが喜びそうな触れ合い遊びや音楽を準備しておく。 ●危険のない保育環境を整える。 ●マットやじゅうたんなどを準備し、転倒した際に直接、頭が床にぶつからないようにする。 ●保育者の楽しむ姿を示し、子どもたちも触ってみようと思えるような雰囲気をつくる。 ●適切な言葉で子どもたちに伝える。 ●くり返しのある絵本や、絵がはっきりしている本を用意する。 ○睡眠のリズムを崩さないように、授乳を進める。 ○●離乳食の食べ具合などを話し合い、一人一人に合った進め方を示す。 ●ゆったりとした食事の雰囲気を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○好きな玩具を取ろうと、向きを変えようとする。 ○玩具を手に持ち、音を鳴らすことを楽しむ。 ○体に触れられることを喜ぶ。 ●コンビカーなど手押し車を使って歩く。 ●壁や柵につかまりながら歩こうとする。 ●興味のあるところにもぐったり、行ってみようとしたりする。 ●水に触れることを怖がる子もいれば、楽しむ子もいる。 ●何でも口の中に入れようとする。 ●思い通りにならずに泣き出す。 ●積極的に声を出そうとしたり、話すことを楽しんだりする ○身近な保育者と情緒的な絆が形成され、愛着関係ができる。 ○●少しずつ食べ物に興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちの身体発達の過程をしっかりと把握し援助することで、安全に個々の移動能力を伸ばす。 ○愛情豊かな笑顔で触れ合うことで、温かい雰囲気をつくる。様々な触れ合い遊びを用意して、個々に合った触れ合い遊びを楽しめる様にする。 ●危険のない保育環境を整えることで、安心・安全に体を動かせるようにする。また、歩いてみたいと思えるような環境を工夫する。 ●口の中に物を入れる可能性が高いため、十分に注意する。 ●くり返しのある絵本や物の絵がはっきりしている絵本を用意し、楽しさを共有する。 ○飲む量、飲む時間など、家庭での授乳状況を把握する。 ○●家庭の食事の状況を知らせる。または確認する。 ●食事の量や食べ方など家庭と連絡を取り合い、食事が楽しいと思う経験をしてもらう。

職員との連携：●活動が活発になるので、保育者間で分担しながら連携を図り、誰がどこに座るかなどを決め、子どもの安全を見守るようにする。○落ち着いた雰囲気をつくり、ゆったりと過ごせるように連携する。

家庭との連携：前月に引き続き、発汗が多いときにはシャワーをすることを伝え、着替えやタオルを多めに準備してもらうようにする。食欲がない子の保護者には、園での食事の量を詳しく伝え、家庭でも留意してもらう。

<自己評価>

<取り組みの状況と保育士の振り返り>

<食育の取り組みの状況と振り返り>

●友だちや保育者との関わりを楽しみにする姿が見られた。同じ遊びや同じ玩具を使いたがり、取り合いになり悔し泣きをすることもあるが、「ちょうだいしてみようか」と言葉を添えながら、少しずつ関わり方を伝えていく。また、友だちにも興味があり「いいいいいこ」の声掛けで、頭をなでる姿も見られるようになった。引き続き、個々の気持ちを受け止めながら関わっていきたい。

○寝返りが盛んになり行動範囲も広がる。周囲の物に頭や体をぶつけないように、環境を整えていく。

●○個々のリズムを大切にしながらも、集団での活動も出来るようになる。

・個々の状況を把握し、その子に合った生活の流れを作ることができた。また、保育者同士、共通認識をする為にこまめに話すように心掛けた。ヘルプの保育者がクラスに入る時は、子どもの様子を伝えながら安全に保育ができるように努めたが、子どもの中には、人見知りや泣いてしまう子もいたため、落ち着かないこともあった。

・外遊びでは、1歳を迎えた子は（歩行できる）靴を履いて自由に行動し、異年齢児の輪の中へ行きたがるが、上手く関わりが出来ずにいるため保育者の援助が必要となる。中月齢児や低月齢児は、周りの景色や雰囲気を楽しむために、砂に触れる機会をつくるが、砂に慣れず嫌がる子もいたため、無理なく自然に砂になれるようにしていくようにする。

・食事は、食材摂取量の取り組み具合を保護者と話し、一人ひとりに合わせた食事形態にすることができた。引き続き、保護者と話し合いながらその子に合った食事段階・形態にしていくようにする。

・ミルクの飲み具合や食事の食べ具合をみて、時間やミルクの量を調整をしていくようにした。